

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第49回『良書を読む ～ 心の蔵を豊かにする ～』

2021年3月21日（日曜日）の午後、定例の『東久留米がん哲学外来・カフェ』（東久留米市スペース105に於いて）に赴いた。3組の個人面談も行い、大変貴重な充実した時であった。終了後は、同じ会場で、読書会であった。今回は、『代表的日本人』（内村鑑三 著、鈴木範久 訳）（岩波文庫）の『西郷隆盛 ～ 新日本の創設者 ～』の「第2章：誕生、教育、啓示」であった。「動作ののろい、おとなしい少年で、仲間の間では、まぬけで通っていました」、『「ウド」のニックネームを与えました』とある。筆者の故郷は鶴峠（ウド）である。不思議な縁である。「まっしぐらな前進あるのみ」、「穏やかな精神の持ち主」、「のろまで無口で無邪気」、「天を相手にせよ。人を相手にするな。」、「天はあらゆる人を同一に愛する」、「我を愛する心をもって人を愛すべし」などなどの「言葉の処方箋」に満ち溢れている。『東久留米がん哲学外来・カフェ』開始の前年2007年から、新渡戸稲造 著『武士道』、内村鑑三 著『代表的日本人』の読書会を始めた。「良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする」（新渡戸稲造）の実践である。継続の重要性を痛感する日々である。

『音楽の処方箋』のCDが送られて来た『[\(がん哲学外来映画製作委員会2018 - Home | Facebook\)](#)（樋野先生監修CD「音楽の処方箋」は、ドキュメンタリー映画「がんと生きる 言葉の処方箋」サウンドトラック & コンセプト・アルバムです。no.16収録曲「ほっとけ 気にするな」歌：田島玲子 作詞：樋野興夫 作曲：鈴木穂波...）』（画像1）。 今年の『ほっとけ 気にするな』（作詞：樋野興夫 作曲：竹原泉）（画像2）に続いてのCDである。大いに感動した。みなさまの愛情には、涙無くして語れない！まさに、新渡戸稲造の「Union is Power」（協調・協力こそが力なり）の実感である。

ドキュメンタリー映画『がんと生きる 言葉の処方箋』
サウンドトラック&コンセプトアルバム

音楽の処方箋

Music as Healing

いのち
～音楽は生命なり～

